



鴻中だより



鴻巣中学校
TEL 048(541)0272

令和5年8月29日発行 第5号
公式ホームページ <https://konosu-j-konosu-edumap.jp>

甲子園球児にも劣らぬ、暑さの中の好プレー

～鴻中男子テニス部の冷静な判断と行動～

校長 服部幸司

記録的な猛暑が続いた夏休み終盤8月23日(水)、連覇を目指した仙台育英高校(宮城県)に慶応義塾高校(神奈川県)が勝ち、第2回大会以来107年ぶりに全国高校野球選手権大会(夏の甲子園)で優勝しました。今大会も感動的な場面、教えられる場面が数多くありましたが、映し出されている選手・監督・応援団は、体感温度40度を超えるような環境にあるのだ、ということテレビ画面を通して再認識させられました。



世紀をこえた優勝 慶応義塾高校野球部

今大会は、暑さ対策として、

①20年ぶりにベンチ入り人数が18人から20人に増えました。背番号19番、20番の控え選手が生き生きとプレーする姿を観て、嬉しい気持ちになった方も多かったと思います。

②今大会から初めて「クーリング タイム」が導入されました。5回終了後10分間、選手はもちろん、球場にいる全員が水分摂取や身体冷却を行うものです。

9月15日(金)の本校体育祭においても、クーリングタイム等々の暑さ対策を万全にして実施したいと思っています。

今夏、本校でも、照りつける太陽の下、多くの部が工夫しながら練習に励んでいました。男子テニス部は、8月のお盆明け朝8:10、テニスコート脇の道路で倒れている



おばあちゃんを発見。顧問の先生にすぐに知らせ、教頭先生を呼びに行き、武道場の先生、職員室の先生方にも応援を依頼しました。救急車を嫌がるおばあちゃん(92歳)を教頭先生と顧問の先生が説得。一人暮らしのおばあちゃんの娘さん(県東部に在住)に電話で確認し、救急車要請。14:30、娘さんがお礼と報告に本校を訪問してくださいました。おばあちゃんは骨折し、手術まで必要な状況だったそうです。

きっと、おばあちゃんは、「他人に迷惑をかけたくない、娘に心配をかけたくない」という一心で救急車要請を拒んだのだと推察します。「放っておけない鴻中テニス部男子」は、教頭先生始め、多くの先生方に応援を依頼し、的確におばあちゃんの窮地を救ったのです。甲子園球児にも劣らぬ、暑さの中の冷静な好プレーです。

夏の甲子園最後を飾った慶応義塾塾歌(校歌)の歌い出しは ♪見よ 風に鳴る わが旗を♪、鴻巣中学校の校歌の冒頭は ♪空にのぞみの旗かざし♪、慶応義塾塾歌は1940年(昭和15年)信時潔作曲、鴻中校歌は1948年(昭和23年)山田耕筈作曲。戦前、戦後の違いはあるけれども、世情も暗く、生きる方向も定かでない時、若者には高い理想を掲げて、明るく、力強く、生き抜いてほしい、という思いが溢れる歌詞なのです。